

<水底質の調査地域と調査手法>

①水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 1 のとおり伊勢湾内の 34 地点です。

調査内容は表 1、調査実施方法は図 2 のとおりです。

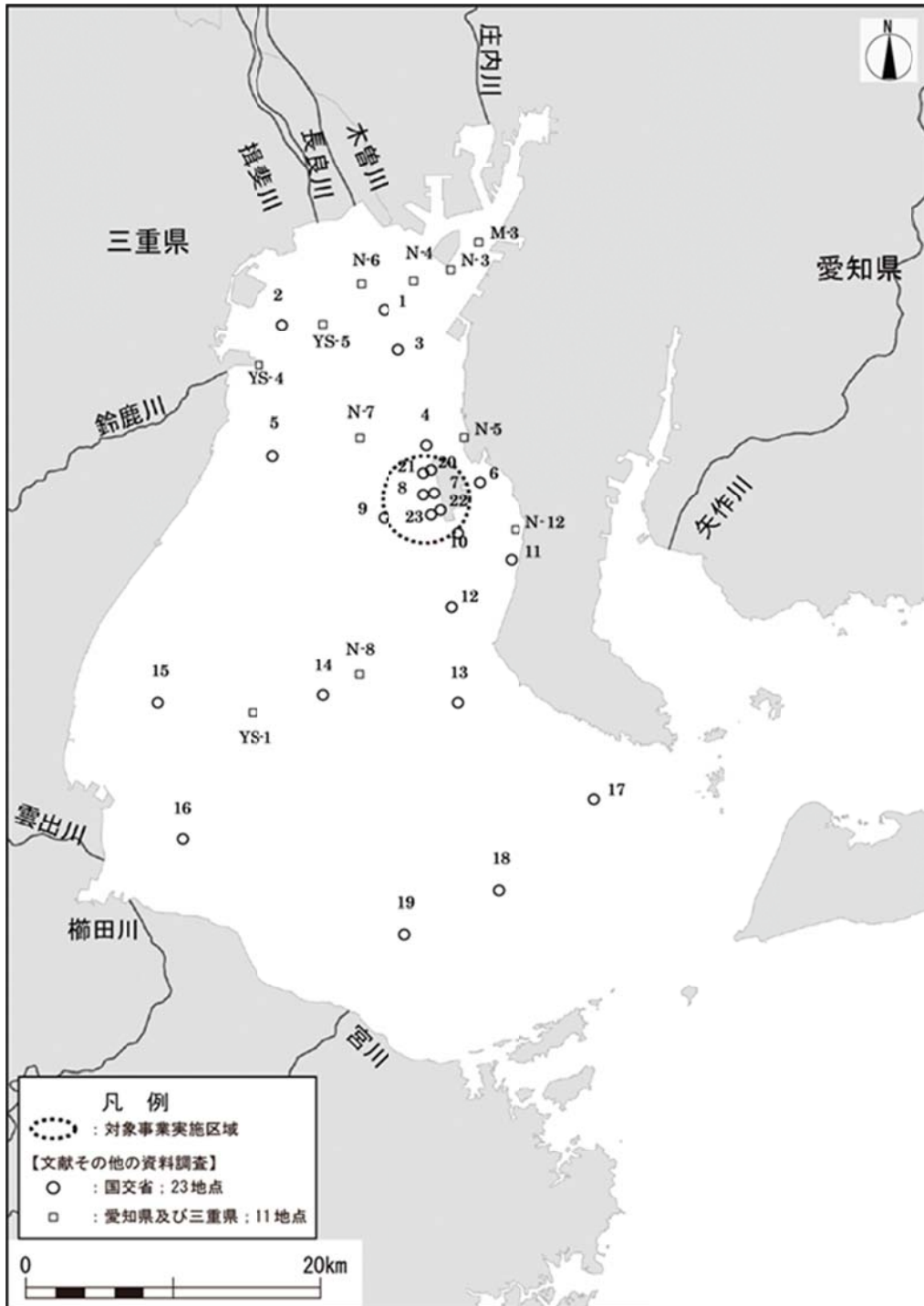


図 1 水質（化学的酸素要求量、全窒素、全磷）の調査地点
 (方法書 232 ページ図 5.2-4(1)、236 ページ図 5.2-5 に一部加筆)

表 1 水質（化学的酸素要求量、全窒素、全燐）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
化学的酸素 要求量、 全窒素、全燐	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器を用 いて試料を採取 分析方法：「水質汚濁に係る環境 基準について」（昭和 46 年環境 庁告示第 59 号）に定められた方 法	平成 26 年度 ・調査地点：23 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 26 年度 各月
	”	平成 27 年度 ・調査地点：23 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 27 年度 各月
	”	平成 28 年度 ・調査地点：9 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、 下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、 10 月 1 回
	愛知県・三重県（公共用水域）／ 「水質汚濁に係る環境基準につ いて」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定められた方法	・調査地点：11 地点 （愛知県 9 地点、三重県 3 地点） ・採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間 程度 各月

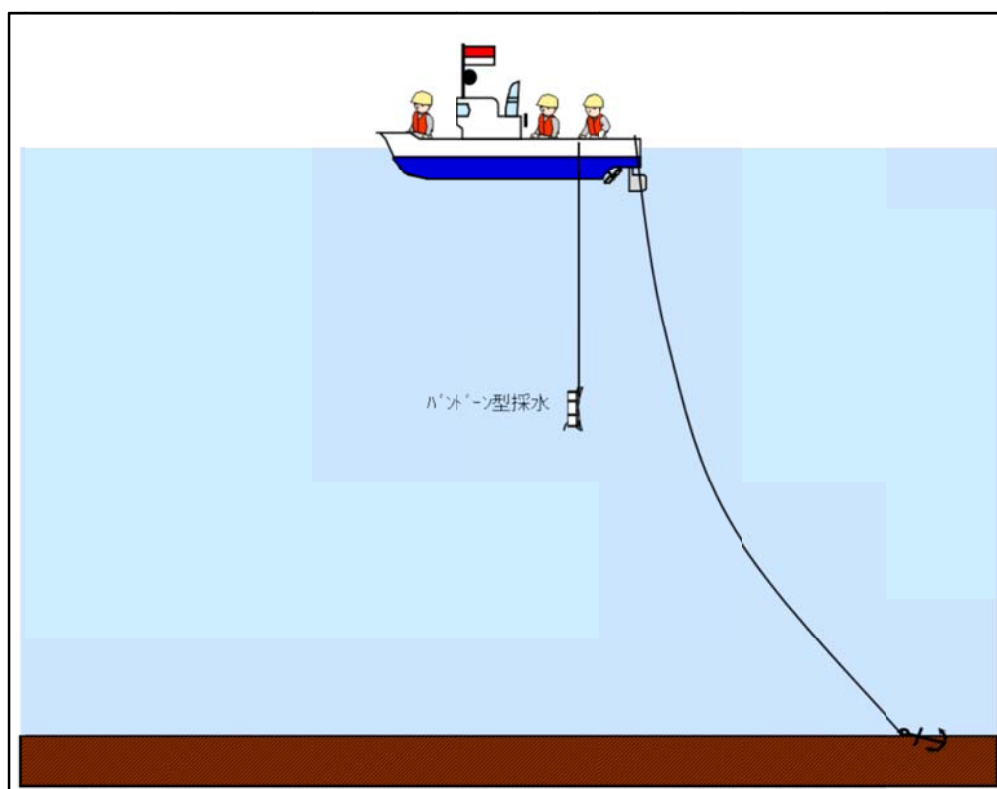


図 2 調査実施方法（水質：化学的酸素要求量、全窒素、全燐）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）
- 「三重の環境 河川、海域（公共用水域）及び地下水調査結果（平成 23～27 年度）」（三重県）

②水質（溶存酸素量、水温、塩分）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水質（溶存酸素量、水温、塩分）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 3 のとおり伊勢湾内の 39 地点です。

調査内容は表 2、調査実施方法は図 4 のとおりです。

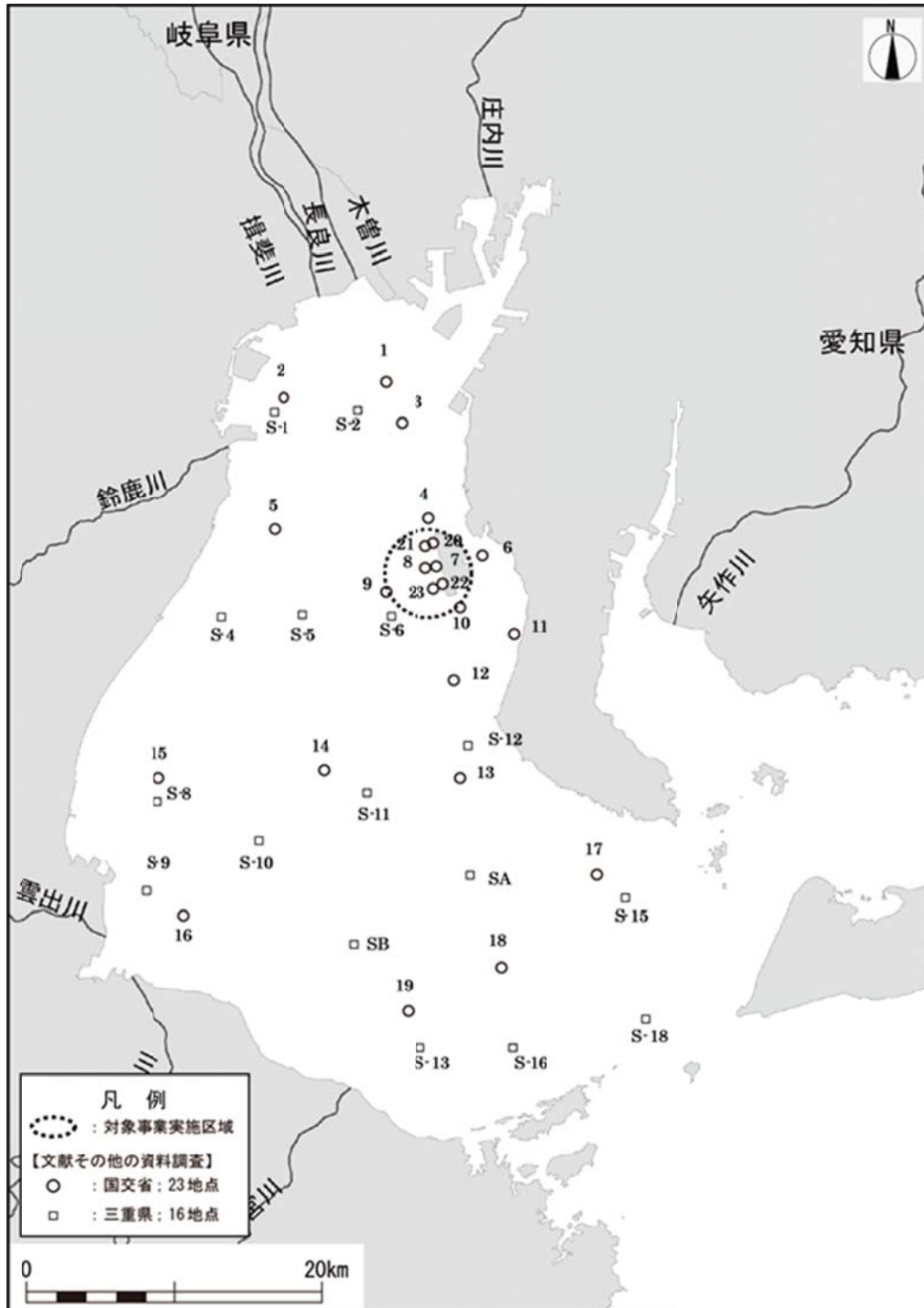


図 3 水質（溶存酸素量、水温、塩分）の調査地点
(方法書 233 ページ図 5.2-4 (2)、239 ページ図 5-2-6 に一部加筆)

表 2 水質（溶存酸素量、水温、塩分）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
溶存酸素量、 水温、塩分	国交省／ 多項目水質計による測定	平成 26～28 年度 ・調査地点：23 地点 ・取得層：0.5m 間隔	平成 26～28 年度 各月
	三重県／ 多項目水質計による測定	・調査地点：16 地点 ・取得層：0、2、5、10m 以降は 10m 間隔、海底上 1m	入手可能な 5 年間程度

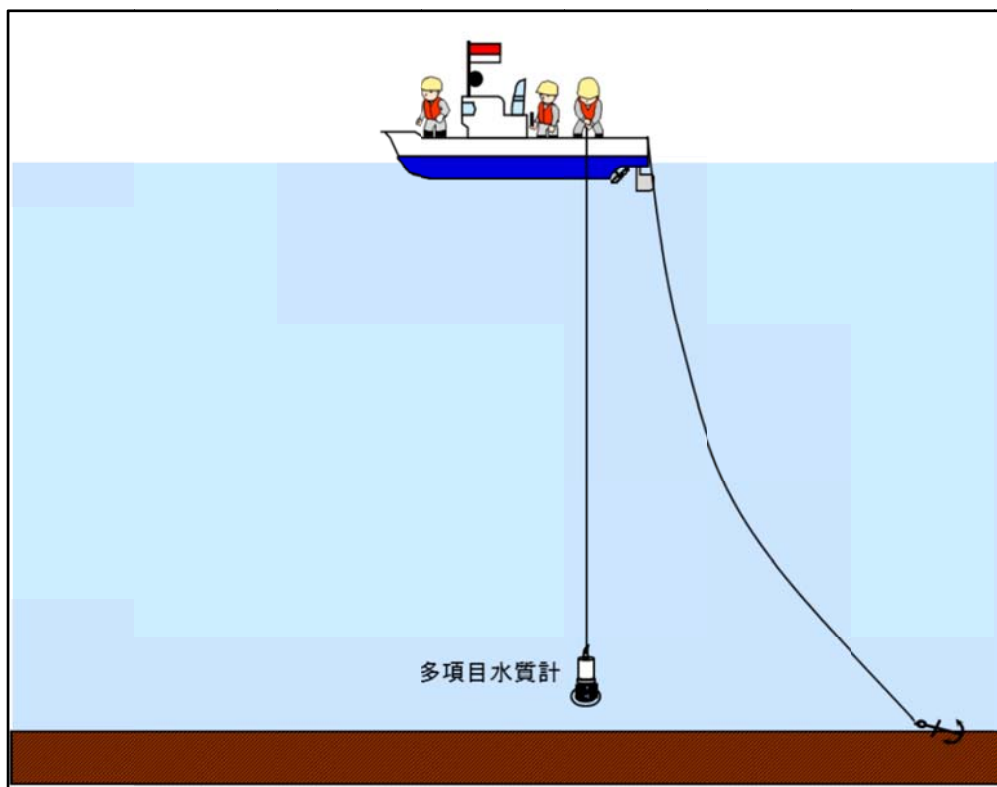


図 4 調査実施方法（水質：溶存酸素量、水温、塩分）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「浅海定線観測結果インデックス（平成 23～27 年度）」（三重県）

③水質（土砂による水の濁り）

対象事業実施区域及びその近傍の海域の水質（土砂による水の濁り）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 5 のとおり中部国際空港島周辺の 7 地点です。

調査内容は表 3、調査実施方法は図 6 のとおりです。

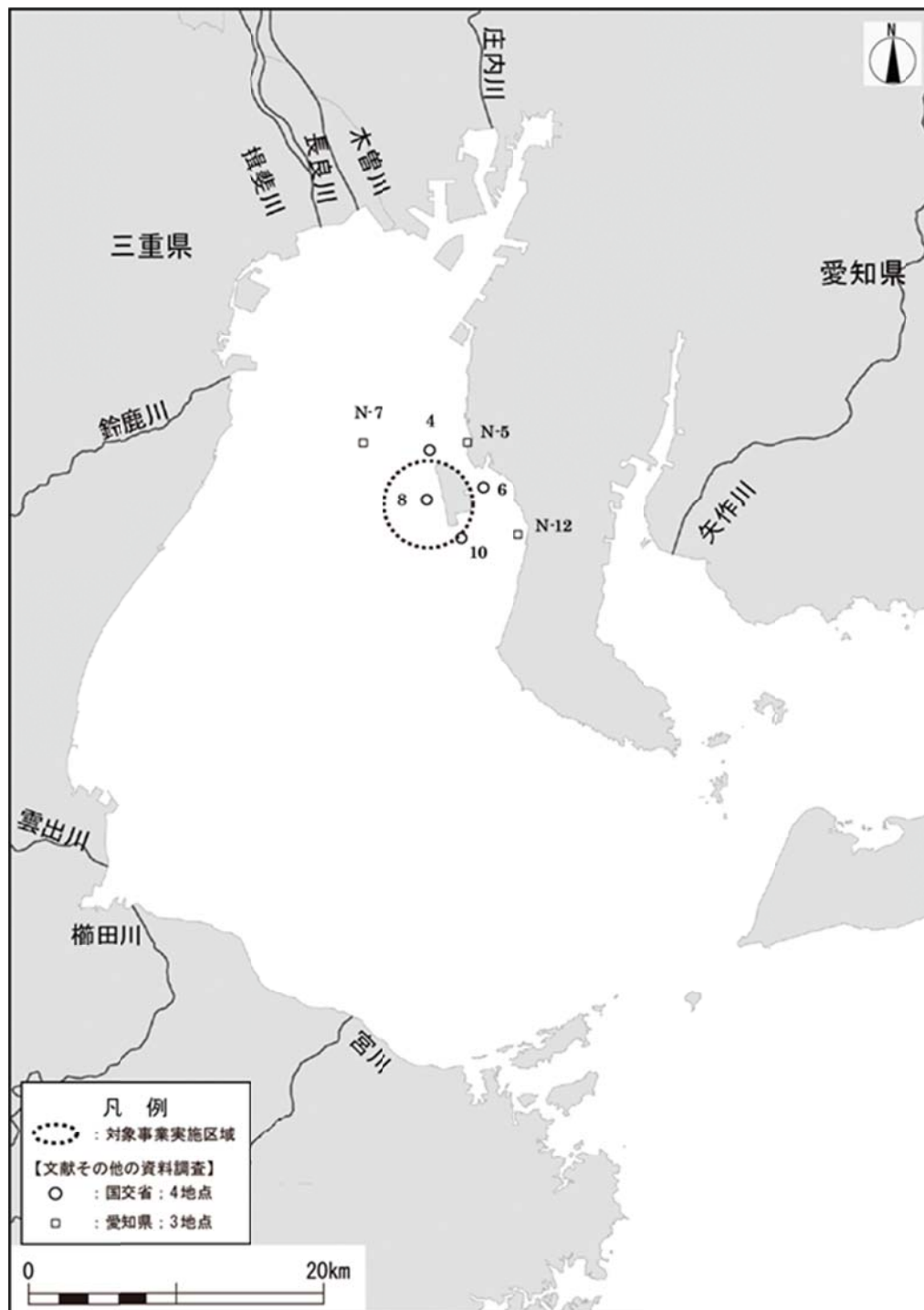


図 5 水質（土砂による水の濁り）の調査地点（方法書 242 ページ図 5.2-7 に一部加筆）

表 3 水質（土砂による水の濁り）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
浮遊物質量	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器 を用いて試料を採取。 分析方法：JIS K 0102 14.1	平成 26 年度 ・ 調査地点：4 地点 ・ 採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 26 年度 四季（5、8、11、2 月）
	〃	平成 28 年度 ・ 調査地点：4 地点 ・ 採水層：上層（0.5m）、中層（水深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、10 月 1 回
	愛知県(公共用水域)／ 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定め られた方法	・ 調査地点：3 地点 ・ 採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間程度

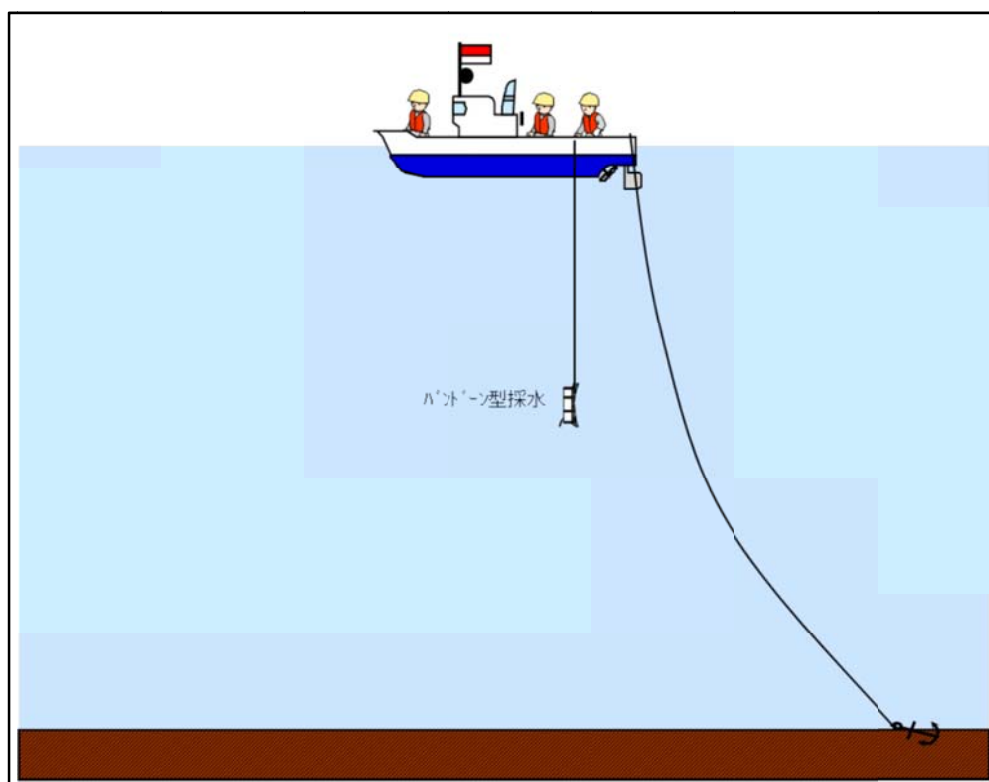


図 6 調査実施方法（水質：土砂による水の濁り）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）

④水質（水素イオン濃度）

対象事業実施区域及びその近傍の海域の水質（水素イオン濃度）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 7 のとおり中部国際空港島及び周辺海域の 15 地点です。

調査内容は表 4、調査実施方法は図 8 のとおりです。

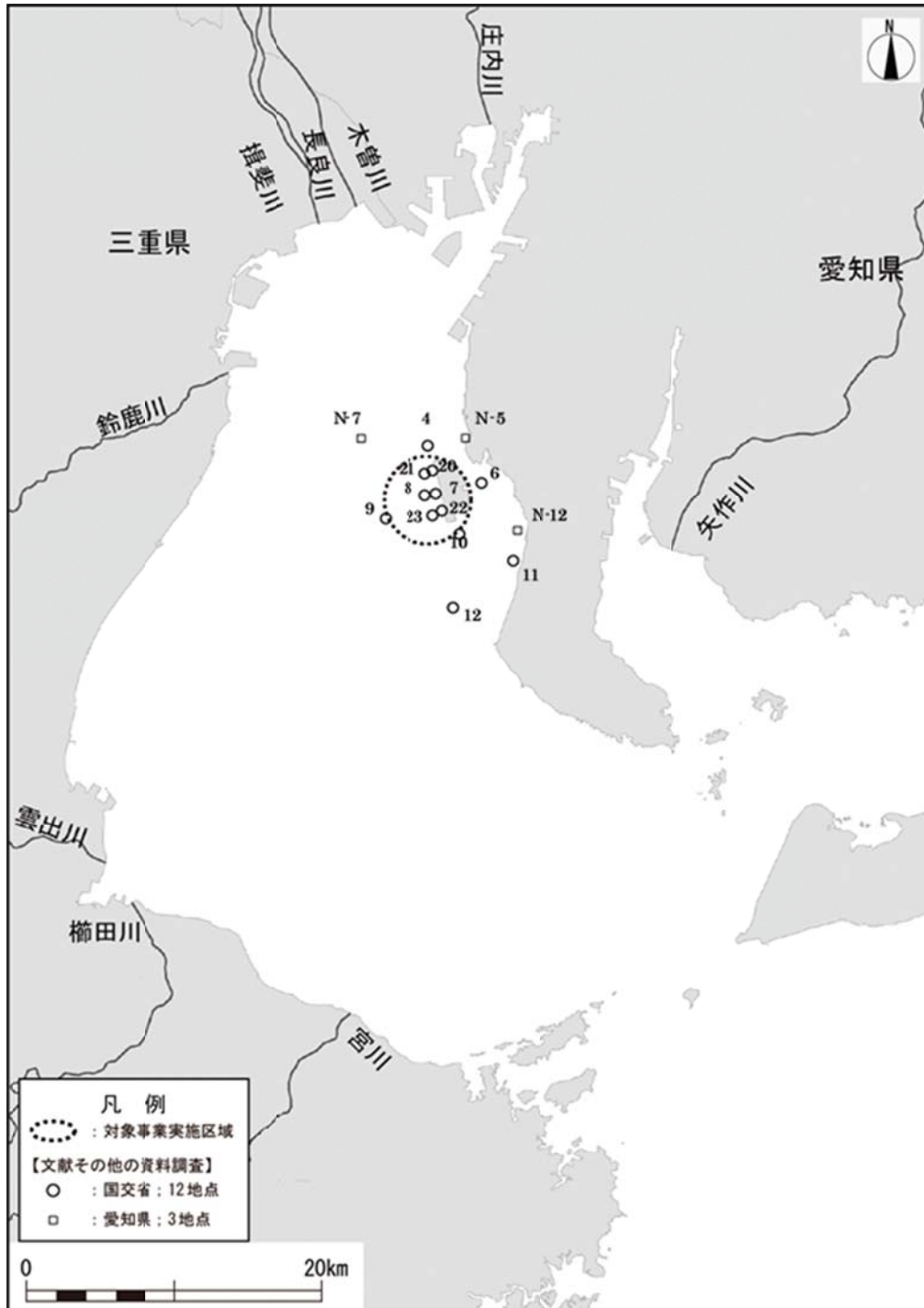


図 7 水質（水素イオン濃度）の調査地点（方法書 244 ページ図 5.2-8 に一部加筆）

表 4 水質（水素イオン濃度）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
水素イオン濃度	国交省／ 調査方法：バンドーン採水器 を用いて試料を採取 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定 められた方法	平成 26、27 年度 ・調査地点：12 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水 深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 26、27 年度 各月
	”	平成 28 年度 ・調査地点：8 地点 ・採水層：上層（0.5m）、中層（水 深 1/2）、下層（海底上 0.5m）	平成 28 年度 5 月 1 回、8 月 2 回、10 月 1 回
	愛知県（公共用水域）／ 分析方法：「水質汚濁に係る 環境基準について」（昭和 46 年環境庁告示第 59 号）に定 められた方法	・調査地点：3 地点 ・採水層：上層（海表面）、中層（2m）	入手可能な 5 年間程度

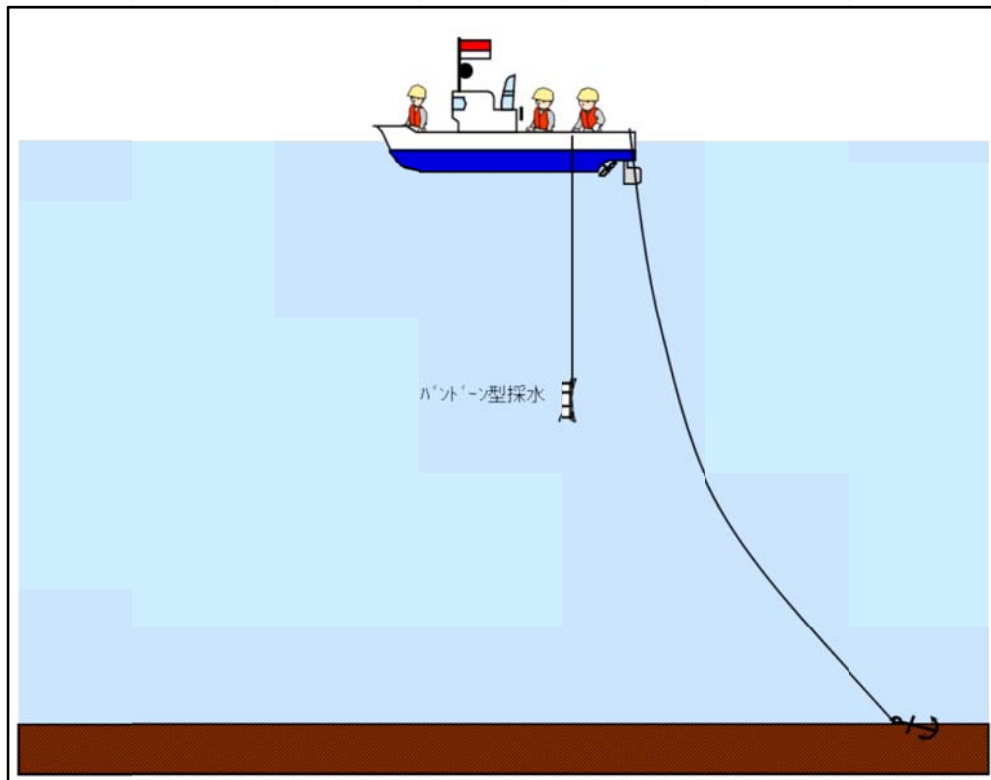


図 8 調査実施方法（水質：水素イオン濃度）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）
- 「あいちの環境 平成 24～27 年度公共用水域の水質等調査結果」（愛知県）

⑤水底の底質（有害物質）

対象事業実施区域及びその周辺の海域の水底の底質（有害物質）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 9 のとおり対象事業実施区域内の 4 地点です。

調査内容は表 5、調査実施方法は図 10 のとおりです。



図 9 水底の底質（有害物質）の調査地点（方法書 246 ページ図 5.2-9）

表 5 水底の底質（有害物質）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
有害物質	国交省／ 調査方法：スミス・マッキンタイヤー型採泥器 による底質の採取 分析方法：海洋汚染等及び海上災害の防止に 関する法律施行令等に規定する有害物質の測定 の方法	平成 28 年度 ・調査地点：4 地点	平成 28 年度 2 月

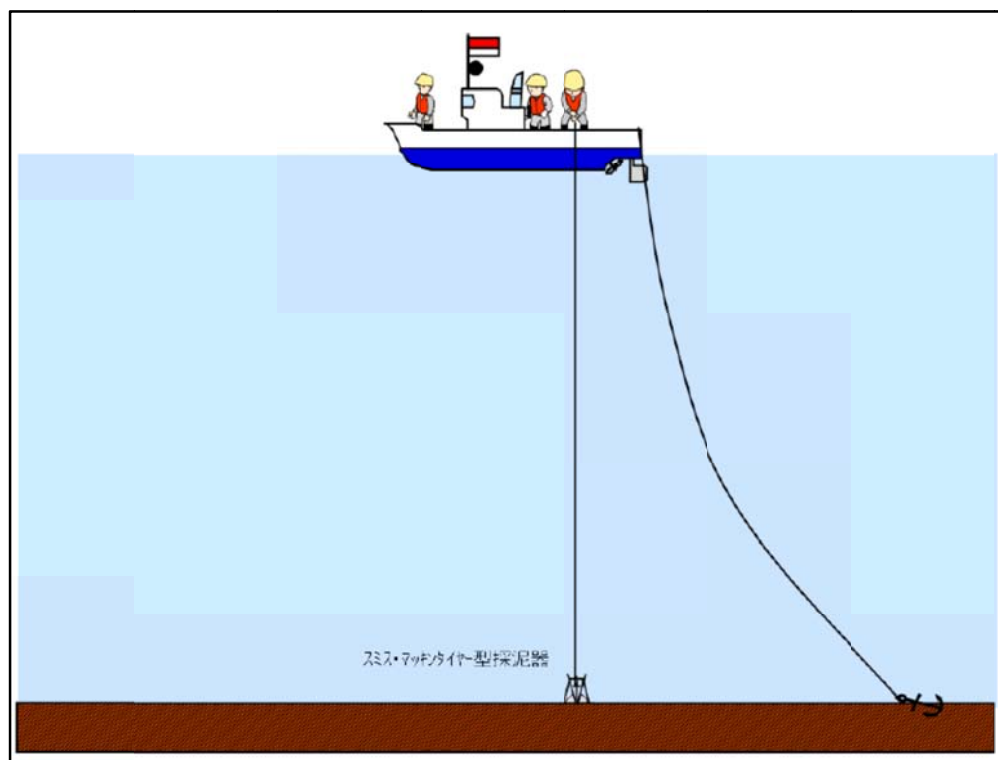


図 10 調査実施方法（水底の底質：有害物質）

【文献名】

「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

⑥水底の底質（粒度組成）

対象事業実施区域及びその周辺の水底の底質（粒度組成）の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 11 のとおり伊勢湾内の 12 地点です。

調査内容は表 6、調査実施方法は図 12 のとおりです。



図 11 水底の底質（粒度組成）の調査地点（方法書 248 ページ図 5. 2-10 に一部加筆）

表 6 水底の底質（粒度組成）の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
粒度組成	国交省／ 調査方法：スミス・マッキンタイヤー型採泥器 による底質の採取 分析方法：JIS A 1204	平成 26～28 年度 ・調査地点：12 地点	平成 26、27 年度：4 季（5、 8、11、1 又は 2 月） 平成 28 年度：8、2 月

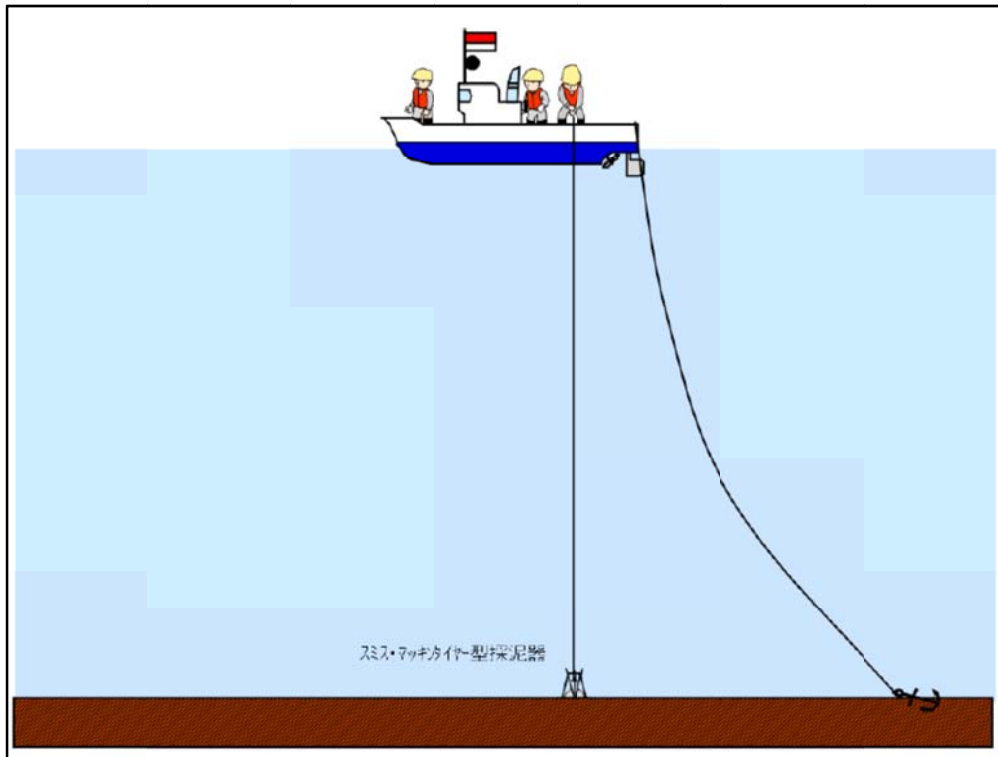


図 12 調査実施方法（水底の底質：粒度組成）

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 27 年）
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 28 年）
- 「平成 28 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響予測検討業務報告書」（国土交通省中部地方整備局 平成 29 年）

⑦ 流向及び流速

対象事業実施区域及びその周辺の海域の流向及び流速の状況を把握するための調査であり、調査地点は図 13 のとおり伊勢湾内の地点です。

調査内容は表 77、調査実施方法は図 14 のとおりです。

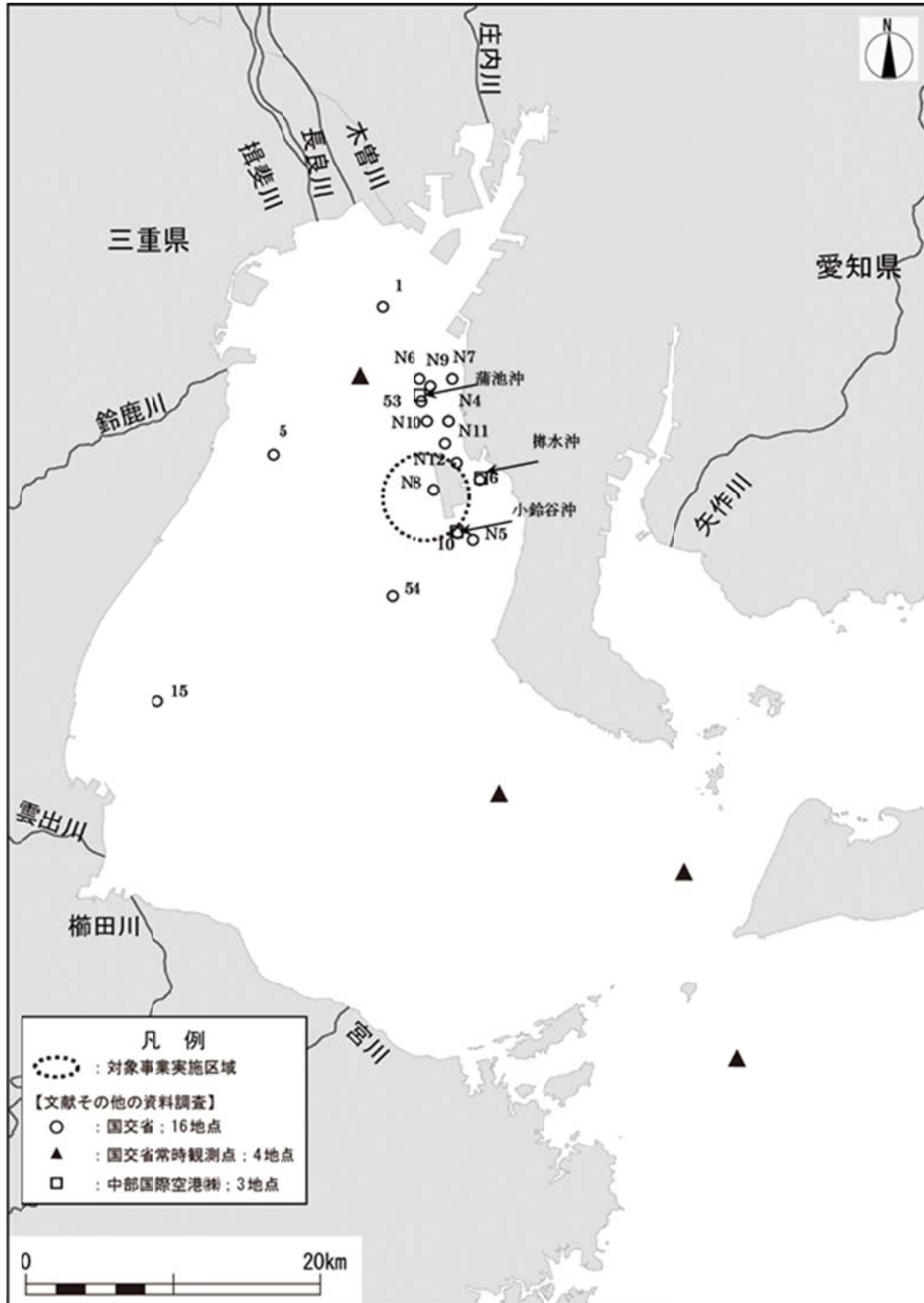


図 133 流向及び流速の調査地点（方法書 251 ページ図 5.2-11 に一部加筆）

表 7 流向及び流速の調査内容

調査名	調査機関／調査手法	調査地点	調査時期等
流向及び流速	国交省／ 電磁流速計 (COMPACT-EM 又は INFINITY-EM) による流速の測定	平成 26 年度 ・調査地点：7 地点 (No.1、5、6、10、15、53、54) ・取得層：3 層	4 季 (5、8、11、1 又は 2 月) 30 日間連続
	”	平成 26 年度 ・調査地点：4 地点 (N4、N5、N6、N7) ・取得層 N4、N5、N7：海底上 0.5m の 1 層 N6：海底上 0.5m 及び海面下 5m の 2 層	7～9 月 90 日間連続 (2,160 時間)
	”	平成 27 年度 ・調査地点：1 地点 (N8) ・取得層：2 層 (海面下 2m、海底上 0.5m)	4 季 (5、8、11、2 月) 30 日間連続 (720 時間)
	”	平成 27 年度 ・調査地点：5 地点 (N4、N9、N10、N11、N12) ・取得層：2 層 (海面下 1m、海底上 0.5m)	7～9 月 40 日間連続 (960 時間)
	国交省／ 常時観測点による流速の測定	・調査地点：4 地点 湾奥：1 層 湾央：2m 間隔 (15 層) 中山水道：上層 (約 1.4m)、中層 (約 8.2m)、 下層 (約 12.4m) 湾口：上層 (約 1m)、中層 (約 11.8m)、 下層 (約 23.2m)	常時観測
中部国際空港 (株)	・調査地点：3 地点 ・取得層：2 層 (上層、底層)	平成 17 年度～19 年度 4 季 30 日間連続	

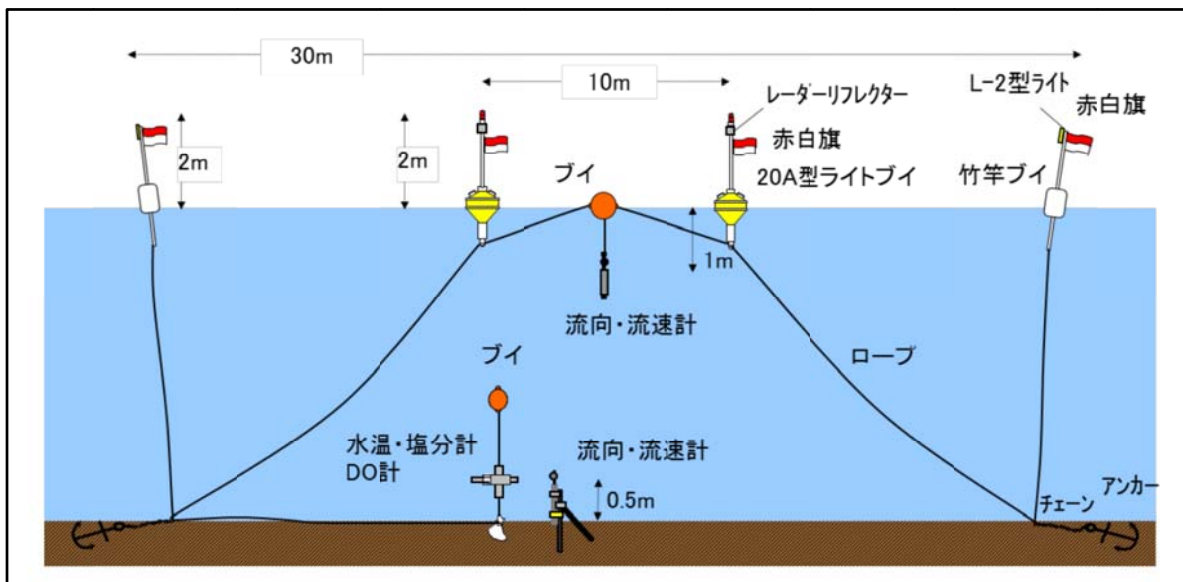


図 14 調査実施方法 (流向及び流速)

【文献名】

- 「平成 25 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」(国土交通省中部地方整備局 平成 27 年)
- 「平成 27 年度 名古屋港新土砂処分場漁業影響検討業務報告書」(国土交通省中部地方整備局 平成 28 年)
- 「伊勢湾水質定点モニタリング速報」(伊勢湾環境データベース)
- 「空港島及び空港対岸部に係る平成 19 年度環境監視結果 速報 (概要版)」(中部国際空港(株)・愛知県 平成 20 年)